

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察技術情報について

令和2年度病害虫発生予察技術情報第2号を発表したので送付します。

令和2年度病害虫発生予察技術情報第2号

水稻（一期作）作付けにおけるスクミリンゴガイの防除対策について

水田におけるスクミリンゴガイは無水でも半年以上生存し、湛水すると活動を再開し田植え後の苗を食害します。令和2年10月（二期作）の石垣島での調査では、発生ほ場率37.5%（平年18.3%）（図1）、貝数0.3頭/m²（平年0.1頭/m²）（図2）と平年よりやや多い結果となっており、今作（令和3年一期作）でも本種の発生が増加する恐れがあります。被害を防ぐためには、田植え前～田植え後3週間までの防除対策が重要となりますので、以下の対策を徹底しましょう。

1 生態

- （1）本種は南米原産のリンゴガイ科の大型淡水巻貝で、1980年代に台湾などから食用（養殖用）として導入されたものが野生化した。国内では関東以南に分布し、九州・沖縄地域で被害が大きい。水稻では移植後2～3週間までの若苗を食害し、多発すると欠株や生育障害をもたらす（図3、4）。
- （2）成貝は最大で殻高8cmほどになり、寿命は2～3年程度と見られる。殻色は黄褐色～黒色、螺層は5層右巻きで、殻口は大きく角質の蓋を備える（図5）。周年活動するが、3月頃から摂食や交尾が活発になり、夏季に盛んに繁殖する。
- （3）摂食活動は水中で行われ、深水田で被害が多い。落水後は土中に潜って活動を停止し、湛水すると活動を再開する。乾燥条件下では口蓋を閉じて代謝を下げ、無水でも半年以上生存できる。
- （4）母貝は夜間、水辺の植物や用水路等のコンクリート壁面に登り、直径2～4mmの鮮紅色の卵を数十～数百個の卵塊状に産卵し、1頭あたりの年間総産卵数は2,400～8,600にもなる（図6）。産卵は3～4日間隔で行われ、好適な環境では約10日でふ化し、2ヶ月程度で成熟する。

2 防除対策上注意すべき事項

- （1）貝及び卵塊は見つけ次第除去する。人体に有害なセンチュウが寄生している場合があるので、捕殺する際にはゴム手袋を着用する。
- （2）取水口に侵入防止網等（目合5～10mm程度）を設置し、用排水路からの侵入を防ぐ（図7）。
- （3）水深が深い場所の幼苗は集中的に食害されるため、ほ場自体に傾斜や凹凸を生じさせないように均平にする。
- （4）本田での食害が集中する移植後2～3週間は1cm以下の浅水管理に努め、本種の活動を抑えるとともに、メタアルデヒド粒剤などの薬剤を施用する。
- （5）畦畔及び用排水路周辺の雑草を除去し、産卵場所を作らない（図8）。
- （6）収穫後は通常より浅く、遅い速度で丁寧に耕耘し、成貝を破砕する。

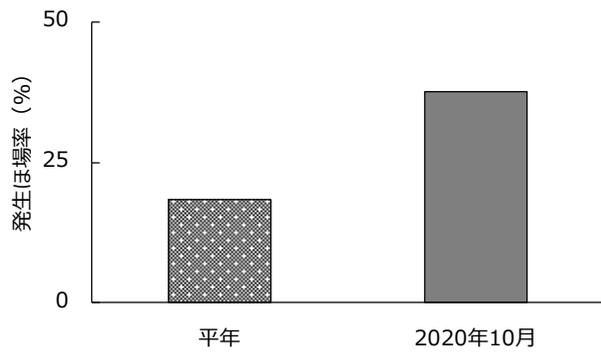


図1 スクミリンゴガイの発生ほ場率

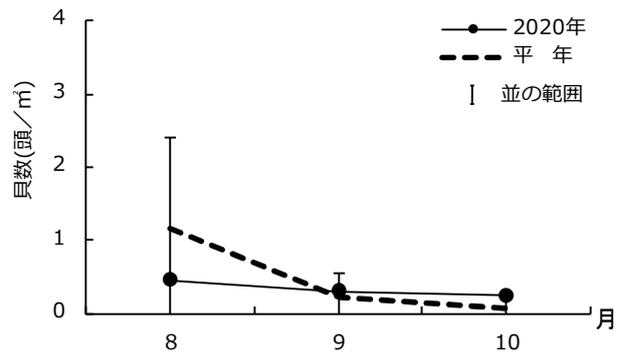


図2 スクミリンゴガイ (貝数) の推移



図3 食害による水田の欠株



図4 イネ株元に寄生する幼貝



図5 成貝



図6 卵塊



図7 取水口の侵入防止網



図8 畦畔雑草上の卵塊

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL : (本所) 098-886-3880、(宮古駐在) 0980-73-2634、(八重山駐在) 0980-82-4933
 ホームページアドレス : <http://www.pref.okinawa.jp/site/norin/byogaichuboj/index.html>